

# 1. 山中温泉ぬくもり診療所の在り方 について



加賀市市民健康部介護福祉課

令和 6 年 11 月 27 日



# 1 山中温泉ぬくもり診療所の在り方について

## (1) 委員の皆様からの主なご意見

### ①外来診療機能について

- ・外来診療機能がなくなる場合、地域住民は不安な思いがあると思われる。
- ・診療所の医師や地域住民の高齢化が進んでいるため、山中圏域の医療提供体制を維持できるか懸念がある。
- ・初診患者数が減少傾向であれば、他の医療機関で対応できると思われる。
- ・他医療機関や公的機関である加賀市病院事業への編入や連携等を検討する必要がある。

### ②病床(19床)について

- ・病床(19床)については、激変緩和としての役割は果たした。
- ・病床は現況では活用は困難な状況となっている。

### ③運営体制について

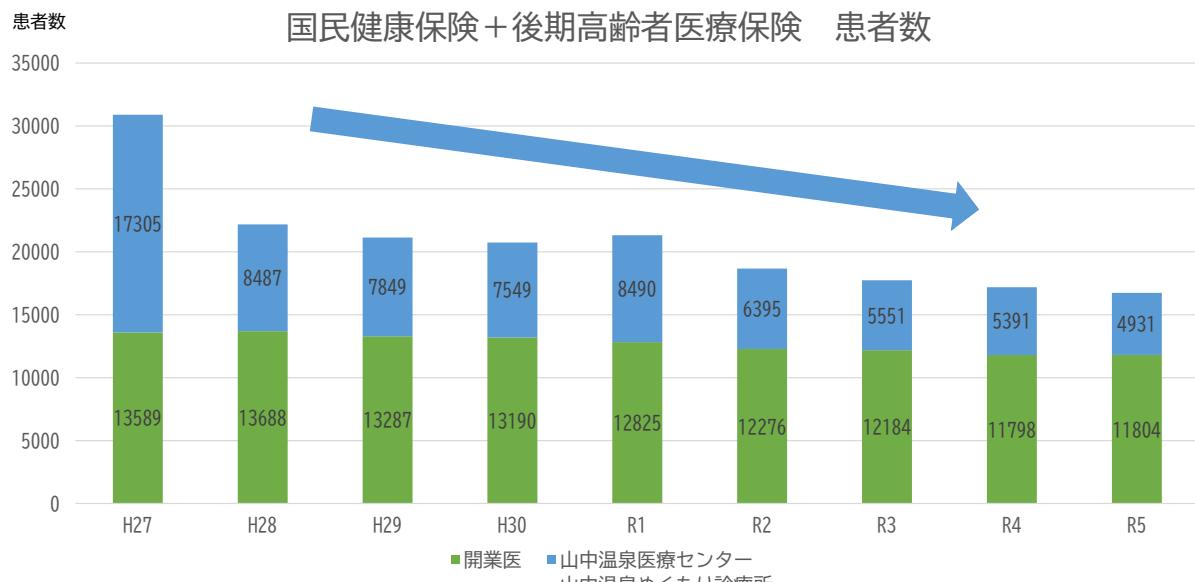
- ・医療提供体制の維持のため、選択と集中の議論の必要がある。
- ・患者数が減少傾向であることから、黒字化は困難であり、閉院の方向も検討する必要がある。
- ・閉院する場合は、山中圏域の住民感情にも配慮が必要がある。
- ・温水プール等の施設は関係事業が赤字の状況では維持は困難と思われる。
- ・児童発達支援センター事業は何らかの形で存続することが望ましい。

## (2) まとめ

- 山中地域の人口減少にともない、患者数は減少傾向であり、今後も収支の面では厳しい状況が続くと思われる。しかしながら、診療所の医師及び山中圏域の住民の高齢化が進んでいることや、外来診療機能がなくなると地域住民は不安を感じることが推測されることから、何らかの受診を支援する体制があることが望ましいと考えられる。他医療機関又は公的機関である加賀市病院事業への編入や連携等を検討することが考えられる。
- 病床(19床)については、激変緩和としての役割は果たしたため病床廃止を検討すべきと考えられる。
- 児童発達支援センター事業は自主事業であるが評価できる事業でありその機能等の存続を別途検討すべきと考えられる。

## 2 山中圏域の患者数の現況について

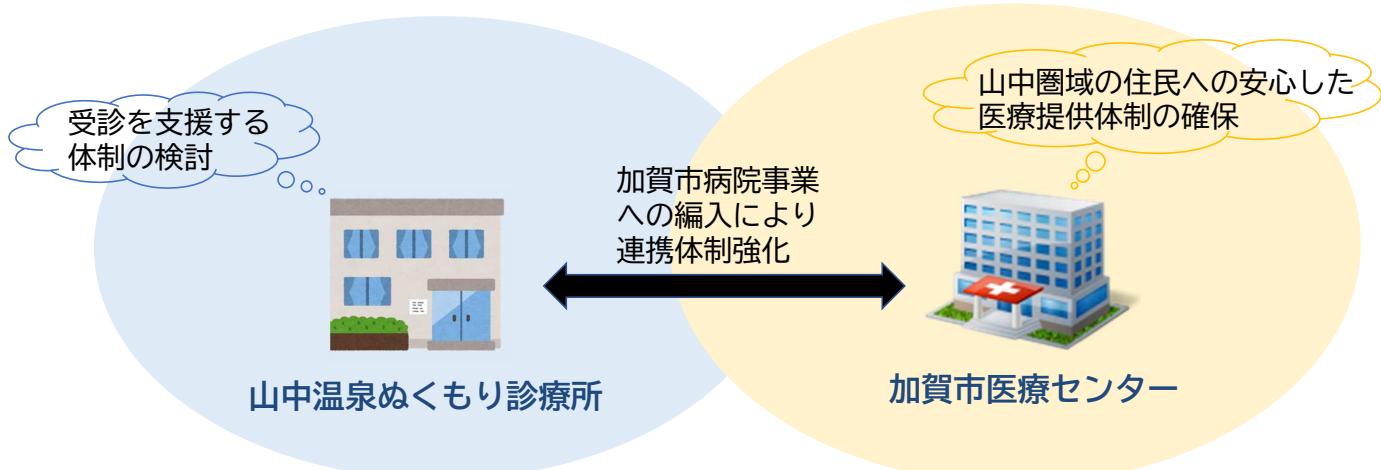
### ● 山中圏域の診療所の患者数（レセプト数）の推移



山中圏域の診療所に通院する患者数は年々減少傾向である。

## 3 今後の方針について（案）

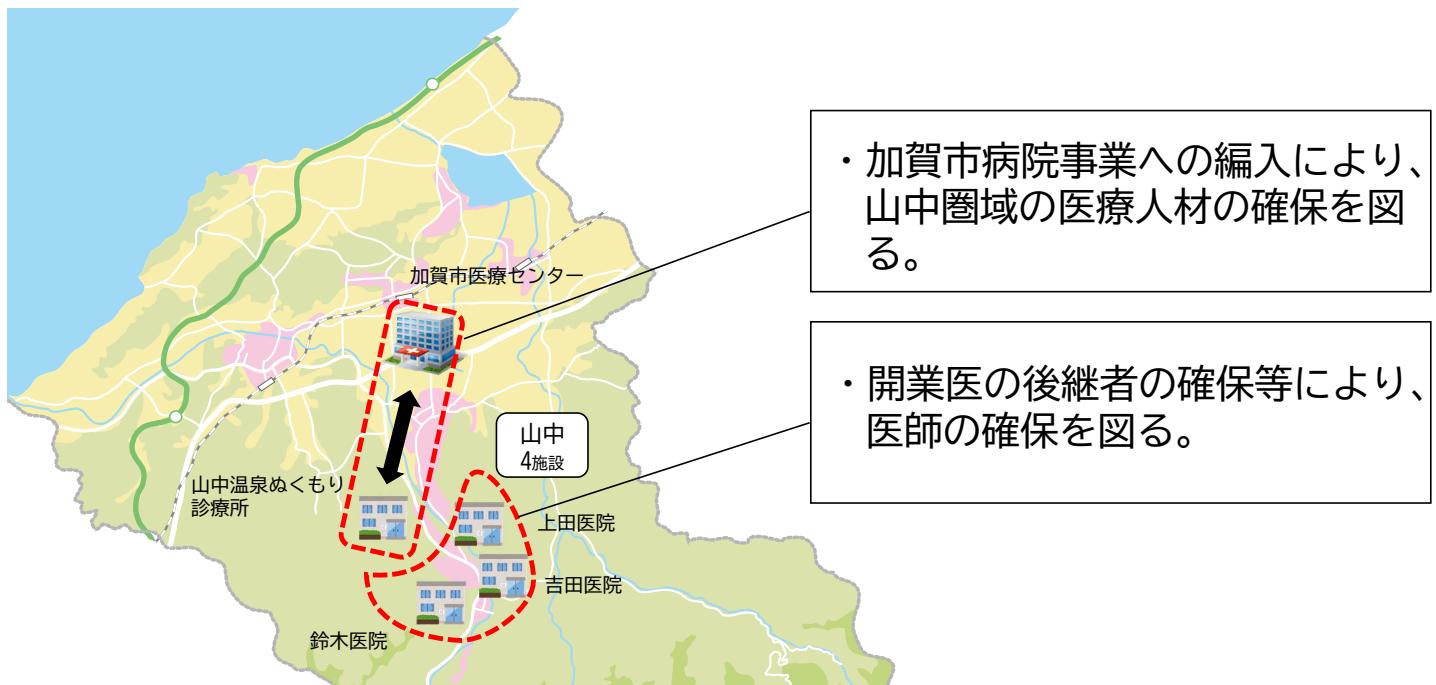
- (1) 山中圏域の住民の不安解消として、加賀市病院事業への編入による、受診を支援する体制を検討する。



加賀市病院事業へ編入することで…

- ・連携体制の強化により、加賀市医療センターを基盤とした医療を山中圏域の住民に提供することができる。
- ・事業の見直し等による持続可能な運営体制とする。

## (2) 山中圏域の医療人材の確保について

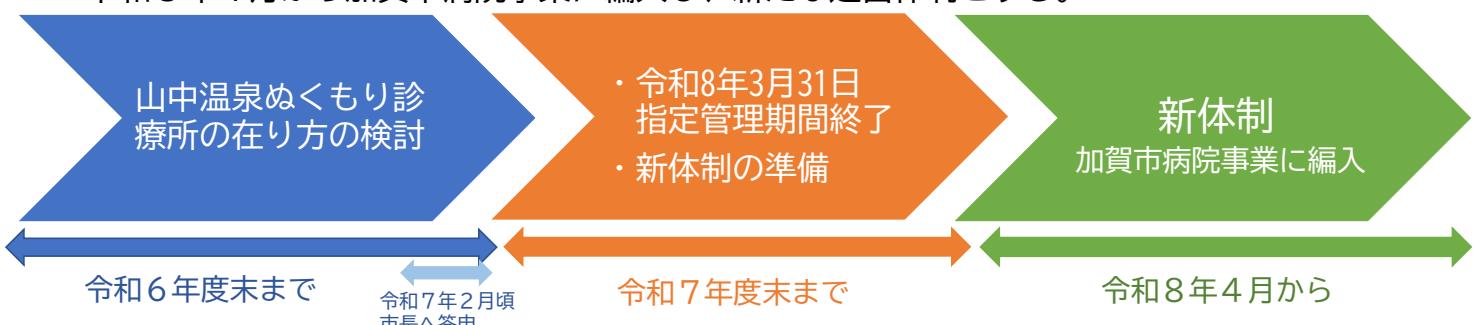


加賀市病院事業への編入による連携体制強化により、山中圏域の医療人材の確保を図ることや、開業医の後継者の確保等により、医師の確保を図る。

## (3) 運営体制について

### ①新体制に向けたスケジュール

- 現指定管理者との指定管理期間は令和7年度末で終了とする。
- 令和8年4月から加賀市病院事業に編入し、新たな運営体制とする。



### ②病床について

- 19床の病床は廃止。

### ③児童発達支援センターについて

- 加賀市健康福祉審議会こども分科会・障害者分科会において、今後の方針等について議論を重ね、新体制の検討を行う。

### ④受診の支援について

- 山中圏域内診療所の受診支援のほか、交通弱者への配慮を交通施策と連携し検討。